

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全	27年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	港の安全性・信頼性の向上	成果	コスト				
事務事業名	大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 工事課、港湾工事事務所、海務課	
目的	対象(誰・何を)	大江ふ頭耐震強化岸壁(38号岸壁)				事業 期間	平成26~31年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	老朽化対策を実施し、施設の長寿命化を図ることで、耐震強化岸壁としての機能を発揮させます。					
概要	整備場所:名古屋港区大江町 内容・規模:鉄道車両やボーイングの部品などの輸送機械を主とする重量物を扱う岸壁であり、震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送を確保します。老朽化した鋼管矢板の補修や地盤改良等を施工します。耐震強化岸壁185m 全体工事費:38億円(平成26年度に19億円から変更) 事業手法:予防保全事業				根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 名古屋港湾計画	
事業着手時点の 評価	耐震強化岸壁としての機能が発揮され、震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送が確保されます。また、施設の長寿命化、維持管理費の縮減が図られます。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
28年度の実施予定	老朽化対策のため、岸壁改良(海側及び陸側の地盤改良、新設控え鋼管杭打設、既設鋼管矢板補修)を行います。				関連 シート		

2 DO(実施)

28年度に実施した 内容・結果	老朽化対策のため、岸壁改良(海側及び陸側の地盤改良、新設控え鋼管杭打設、既設鋼管矢板補修)を行いました。					
コスト	単位	26年度	27年度	28年度	合計(平成26年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	105,036	198,571	926,469	1,230,076	平成26年度177,964千円を平成27年度に繰り越して実施しました。
人件費	千円	4,669	4,549	3,673	12,891	平成27年度72,499千円を平成28年度に繰り越して実施しました。
合計	千円	109,705	203,120	930,142	1,242,967	

3 CHECK(検証)

指標名		26年度	27年度	28年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	7.4	9.9	33.6	84.9(累計)		事業進捗率は、全体工事費を100とした工事費の割合です。	
	実績	2.8	8.0	32.4				
	事業進捗状況(28年度)			順調	やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	金額的には目標値を下回るものの、工事は予定通り進んでおり、平成31年度の事業完了に向け順調に進捗しています。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>	大江ふ頭の老朽化対策の必要性は低下しておらず、緊急物資輸送対応の耐震強化岸壁として、事業を進めていく必要があると考えております。						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	耐震強化岸壁として老朽化対策の実施により、施設の長寿命化を図ることは、上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。 本事業は施工中であるため、成果の評価は対象としておりません。						
効率性 最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	コストが最小になるよう精査して事業を進めています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	29年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
	継続	維持	震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送を確保するために必要不可欠な事業であり、着実に事業を進めていく必要があるため。
課題			29年度以降の取組
大江ふ頭では、鉄道車両やボーイングの部品などを扱っており、岸壁利用に大きな支障が出ないよう、利用者調整を行いながら事業進捗を図っていく必要があります。			平成31年度の完了を目的に利用者調整を図りながら、事業進捗を図っていきます。